

■ **日野富子** **室町幕府8代將軍足利義政の室。"御台所"として非凡な能力を発揮、中世を代表する女性の一人。**

ひのときこ

結城合戦・・1440 = 生。父は内大臣日野重政(政光)。母は従三位苗子。

嘉吉の乱・・1441 = 1歳：

足利義政將軍1449 = **9歳**：

古河公方始・1455 = 15歳： 兄の権大納言日野勝光の計らいにより、足利義政に嫁ぎ、

・・・・・1458 = **18歳**：

寛正大飢饉始1459 = 19歳： ***女子を得るが死産であった。このことに関し、義政の愛妾とも乳母ともいわれる今参局が富子を呪詛したことが露顕したため、富子は義政を動かし、配流して自刃させた。**

その後、男子ができなかったことから、

・・・・・1464 = 24歳：

・・・・・1465 = 25歳：

義政は、出家して浄土寺門跡となっていた義政の弟義尋を還俗させ、名を義視と改めて継嗣とした直後、
富子に実子義尚が生れたため、その將軍襲職を画策し始め、富子と義視との対立、確執が生じ、富子は後援者として有力守護大名家名持豊(宗全)を頼り、義視もまた有力守護大名家細川勝元を頼ることになった。さらに斯波・畠山などの管領家や守護大名家の内部における家督争いもからみ、ここに当時の政界を2分する両勢力の対決が激化した。そしてこれが直接の原因となって、

応仁の乱始・1467 = 27歳： *ついに応仁の乱が勃発した。義政・義尚とともに東軍陣営にあり室町第に居住。

・・・・・1469 = 29歳： 乱の最中に義尚が正式に継嗣と定められ、

足利義政隠居1473 = 33歳： 義政の跡を継いで義尚が9代將軍に就任し、富子の期待はようやく実現をみた。しかし義尚が幼少だったので、実際の政務は義政がとることになったが、義政は現実から逃避してもっぱら遊興にふけり、政務に対する興味と情熱をほとんど失っていた。また義政と富子の夫婦仲もかねてから不和となっていたが、

加賀一揆始・1474 = 34歳： ***以降は別居同然となったため、富子が將軍義尚の後見人として直接政治に関与するようになる。天下の政治はすべて御台(富子)の意のままであるといわれたほどであった。富子はまた、蓄財にも積極的に励み、うち続く戦乱で窮乏した諸大名に高利で金銭を貸し付けたり、米相場に介入して暴利を得たり、京都七口などに関所を設けて関銭を徴収するなど、さまざまな手段を用いて莫大な財貨を蓄積していった。**

・・・・・1476 = **36歳**：

同第焼失後は小河常御所に移住。 乱の終結に尽力し西軍足利義視や大内政弘から多額の礼金を受け取り、この年の兄勝光の死後、積極的に幕政に関与し特別重大な問題を除いて富子が裁断し、御内書も発した。

応仁の乱終・1477 = 37歳：

・・・・・1478 = 38歳：

・・・・・1480 = 40歳：

幕府は内裏修理のため京都七口に関所を設けたが、修理は名目にすぎず富子の収入となったため、
土一揆が蜂起した。

また高利貸を営み収入は計り知れず、西軍畠山義就に1000貫文の軍用金を貸与した。

義政政権放棄1482 = 42歳：

義政が長谷御所に隠居したため幕府沙汰始を執行しするなど、將軍後見人として絶大な権勢をふるい、

狩野正信絵師1483 = 43歳：

頼みの義尚ともしだいに不和となっていた。

山城国一揆・1485 = **45歳**：

まもなく義尚が幕政を担当し始め政治から離れる。気性が激しく義政・義尚とたびたび不仲になる。

加賀一揆支配1488 = 48歳：

銀閣寺完成・1489 = 49歳：

足利義政没・1490 = 50歳：

義尚が近江出陣中に没し、
義政も病没、富子は出家して妙善院と号したが、なお政治力を発揮して幕政に大きな影響を及ぼす。次期將軍の候補者にかつて將軍継嗣をめぐる争った足利義視の子義材(義植)と堀越公方足利政知の子清晃(義澄)があがったが、管領細川政元とはかって、富子の推挙により前者が10代將軍となり、義視が後見した。

明応の政変・1493 = 53歳：

***小河御所を清晃に与えたが、義視に破却され、料所も差し押さえられるなど、さしも権勢を誇った富子も晩年は家庭的には孤独で不遇となり、**

・・・・・1494 = **54歳**：

・・・・・1496 = 56歳：

没した。